

愛知県環境審議会自然環境保全部会会議録

1 日時

2021年3月26日（金）午前10時から午前11時30分まで

2 場所

愛知県庁本庁舎6階 正庁

3 出席者

（1）委員

夏原部会長、長谷川委員、増田委員、渡邊委員、佐藤専門委員、高橋専門委員、富田専門委員、中川専門委員、廣田専門委員、前田専門委員、宮崎専門委員、森部専門委員（以上12名）

（2）事務局

愛知県環境局：小野技監

愛知県自然環境課：來住南課長、大橋担当課長、兒玉担当課長、小川課長補佐、石原課長補佐、松尾課長補佐、山内主査、大越主査、須賀主任（以上10名）

（3）傍聴人

なし

4 議事

（1）あいち生物多様性戦略2030の策定について

・事務局から、資料に基づき説明

<質疑応答>

[長谷川委員] しっかりとした戦略が策定されたが、この実行がよりよい未来につながる。

現状は、皆さんの活動がボランティアで続けられているという状況であるが、専門的な知恵とか知識が必要な部分に十分な予算がついていない。学生たちの活動についても、金銭的なサポートが望まれるが、クラウドファンディングや企業からの寄付も厳しい現状にある。これからも持続的に続けられる経済的な仕組みを考えて欲しい。

[事務局] 大変、重要かつ難しいご指摘をいただいた。この戦略の中で、あいちミティゲーションは、経済システムにのせるという考えで取り組んでいるところである。ユースについては、企業にも支援していただき、継続していけるように考えたい。

[森部委員] p139の基本方針3生きものの恵みをつかうの目標値について、各論的な目標だけでなく金額ベースなど経済的な視点で設定できると、社会全体で取り組んでいけるのではないか。

[事務局] 数値目標についても、戦略を推進していく中で継続的に考えていきたい。現時点では、具体的な対応についてノウハウが見いだせていない。

[森部委員] 例えば、シカの個体数適正管理は、農作物被害の減少や生態系維持に必要であるが、ジビエで何トン利用するというのも目標になると考えられる。

[渡邊委員] 生物多様性の保全を環境局だけで考えるのは不十分だ。例えば、県条例の指定希少野生動植物指定されている種の保全方法として、天然記念物指定がある。文化庁では、昨年、新しい指定文化財の発掘を積極的に進めるという方針を打ち出している。文化財を所管する部局と連携することで、生物多様性の県民理解や保全にも繋がる。

[事務局] 天然記念物については、p85で関係機関と連携をとりながら保護すると書いており、しっかりと連携して取り組んでいきたい。

[高橋委員] 近年、県内で野鳥、特に水鳥の個体数が減ってきている。生活排水の浄化が進み過ぎて、生きもののエサが少なくなっていることも一因のようだ。このため、土木部局などとも連携した対応を検討して欲しい。

[事務局] 三河湾では、アサリのために下水処理水のリンなどを基準内で少し多めに排出しているようだが、野鳥についてもそういった状況であるということであれば、関係部局と相談したい。

[佐藤委員] 今年のニホンジカの捕獲数は、目標 5,000 頭に対して大体目標どおりに実施できている。60 年前は 20 頭しか獲れなかったが、今では 5,000 頭も獲れている。昔は雌ジカを捕獲できなかったが、そうしているうちに一気に増加した。イノシシも今はかなり減っているが、また元に戻ると思う。近年、カモシカがかなり増えており、今からある程度の個体調整をしておかないと、ニホンジカと同じような状況になりかねない。できることなら天然記念物からカモシカを外して欲しい。

[夏原部会長] 個体数の予測はなかなか難しい。柔軟に対応していく必要がある。

[事務局] 来年度、カモシカの第二種特定鳥獣管理計画を改定するので、その中で検討していきたい。

[中川委員] 地球環境の様々な問題の中でも生物多様性は重要な課題であるが、一般の市民にはあまり普及していない。学習講座やパンフレット作成などで県でも取り組んではいるようだが、例えば小学校 5 年生は必ず野外での自然学習を行うというようなことが、小中学校の義務教育に盛り込まれるとよい。

[事務局] 戦略の資料編の p21、22 に、自然への関心や「生物多様性」の認知度に関する県政世論調査結果を掲載している。年代別に集計すると、認知度は若年層が高いが、自然への関心は年配者の方が高いという結果が出ている。今は、義務教育の課程で生物多様性を教えることになっているが、これが生きた形の学習になるような方策を考えたい。

(2) ブルーデータブックあいち2021の作成について

- ・事務局から、資料に基づき説明

[夏原部会長] 概要版は作成しないのか。

[事務局] 概要版ではなく、ウェブでの情報提供の中で概要版相当の状況を提供していきたい。ウェブでは、冊子の形だけでなく、各外来種についての検索や、主要種の写真、解説をリンクするなどの機能を考えていきたい。

5 その他

- ・事務局から、参考資料1から参考資料4について説明